

国際感染症学入門

科目責任者 桐 木 雅 史
学年・学期 1 学年・2 学期

I. 前 文

グローバル化に伴う人や物の国際的な移動の増加は、感染症拡大リスクの増大にもつながっている。また、発展途上国では感染症の存在が貧困からの脱却の阻害要因となりSDGs（持続可能な開発目標）達成の妨げともなっていることから、国際社会が連携して感染症対策に取り組もうという流れにある。本講義ではまず「感染症」を概説した上で、外国から侵入する感染症の事例と対策、海外で罹るかもしれない感染症の例、国際社会における感染症の課題と取り組みなどについて紹介する。グローバル化がもたらした感染症の問題は、「輸入感染症」のような国内的問題のみならず、国際社会全体として取り組むべき大きな課題になっている現状を認識・理解してほしい。

II. 担当教員

教授 川 合 覚 熱帯病寄生虫病室
講師 桐 木 雅 史 熱帯病寄生虫病室

III. 一般学習目標

- 1) 感染症の理解を深める。
- 2) 海外からの感染症侵入リスクと国の対応を知る。
- 3) 感染症の問題を国際社会全体の課題として考察できる視点を持つ。

IV. 学修の到達目標

- 1) 感染症の基礎と病原体の概要を知る。
- 2) 輸入感染症や世界的流行の事例を知る。
- 3) 海外で罹るかもしれない感染症を知る。
- 4) 日本及び海外の感染症対策の事例を知る。
- 5) 国際社会における感染症の課題と取り組みを理解する。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	8	23	水	5	現代のグローバリゼーションと感染症	川 合 覚	1
2		30	水	4	輸入感染症発生の現状	桐 木 雅 史	1
3	9	6	水	4	アウトブレイク	桐 木 雅 史	1
4		13	水	4	節足動物が媒介する感染症	桐 木 雅 史	1
5		27	水	4	狂犬病	川 合 覚	1
6	10	4	水	4	NTDs（顧みられない熱帯病）	桐 木 雅 史	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
7	10	11	水	5	有病国における寄生虫症対策	桐 木 雅 史	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

授業への取り組み状況（20%）、レポートなどの提出物（80%）を総合的に判断して評価を行う。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書は指定しない

講義内で参考となる文献、資料、ウェブサイトなどを紹介する。

VIII. 質問への対応方法

メールまたは対面で質問を受ける。対面を希望する場合は事前にアポイントをとること。

メールアドレスは講義の際に伝える。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医 学 知 識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨 床 能 力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能 動 的 学 修 能 力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社 会 的 視 野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	◎
人 間 性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポートを評価後に返却する。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間
シラバス別冊に記載

XII. コアカリ記号・番号

A-7-2) 国際医療への貢献

B-1-9) 国際保健

C-3-1) 生体と微生物

詳細はシラバス別冊に記載